

走り続けて80年 全国大会4種目、無念の2位

小野寺 繁郎

(昭和17年電気科卒)



1925年(大正14年)生まれの87歳。現在もマスターズ陸上大会(35歳以上なら誰でも出場できる)の各種大会参加を目標に、毎週4回近くの運動場で2時間半ほど汗を流している。

平成23年の参加大会の結果は表1の通りで、全国大会参加の準備として各地のライバルの動向などを探り、金メダルを目標に自信満々の出場であったが、4種目とも伏兵沖縄勢に完敗した。

表1 平成23年度 マスターズ陸上各種大会結果

種目	埼玉大会 5月15日	秋田大会 6月5日	関東大会 7月10日	全国大会 (表2)
60m	1位 大会新	1位 大会新	—	2位
100m	1位 大会新	1位 大会新	1位 大会新	2位
200m	1位 大会新	1位 大会新 東北新	1位 大会新 東北新	2位
400m	—	—	—	2位

平成23年「第32回全日本マスターズ陸上選手権大会」の会場和歌山県紀三井寺公園陸上競技場は、2007年に開催された国際ゴールドマスターズ陸上選手権大会(日本・アジア・アメリカ60歳以上)に出場し、3種目(60m、100m、200m)を完勝した縁起の良い場所であった筈だが、今回は屈辱的な結果に終わってしまった。競技結果詳細は表2の通りで、互角の勝負は60mと100mだけ、残りの200mと400mは大差の2位で、日本記録樹立の引き立て役を演じたただけであった。

表2 平成23年 全日本マスターズ陸上選手権大会詳細

種目	順位	氏名	県	年齢	記録 分:秒"	出場者	日本記録 自己記録
60m	1	長井 善俊	沖縄	85	10"66	6名	10"18
	2	小野寺繁郎	埼玉	86	10"91		10"32
100m	1	長井 善俊	沖縄	85	17"10	8名	16"16
	2	小野寺繁郎	埼玉	86	18"98		17"70
200m	1	長井 善俊	沖縄	85	35"77	6名	今回
	2	小野寺繁郎	埼玉	86	40"32		37"94
400m	1	亀浜 敏夫	沖縄	85	1:23"71	6名	今回
	2	小野寺繁郎	埼玉	86	1:40"29		—

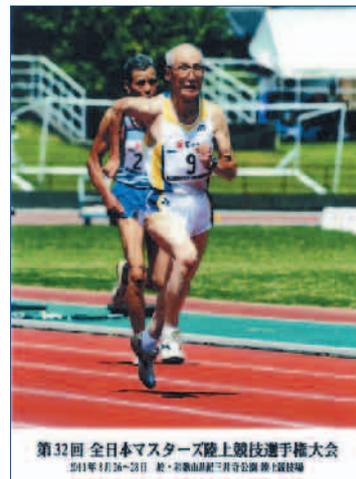
※8月26日(32.5℃)、8月27日(34.0℃)、8月28日(33.0℃)

※参加者総数：1,486名

大会期間中32℃を越す猛暑は、沖縄の人達には有利だったと思うが、それ以上に彼等のマラソンを主とした練習の方法が、後半の強さを発揮したものと思う。

さらに、彼等と接して感ずる事は、競技に対する真剣さを通して、対抗意識・闘争心を強く感ずる。沖縄人の形質・生活環境等から我々の側にも本土人と区別する考え方がある。

また、歴史的にも江戸時代からの琉球王朝に対する内政干渉、明治新政府の皇民化政策、最近では沖縄戦の悲惨な結末、現在も普天間基地移設に絡み沖縄県民の感情を逆なでするような問題があり、本土・沖縄の重苦しい関係はまだまだ続くであろう。スポーツを続ける者として、一日でも早く垣根を取り払った関係になってもらいたい思いである。



「第32回全日本マスターズ陸上選手権大会」
記念写真



2012年4月24日
毎日新聞に掲載

私は幸い小学校時代から走る環境に恵まれ87歳の今まで走り続ける事が出来た。陸上の短距離を続けるには上背の不足が気になったが、オリンピックが行なわれた国立競技場を初め多くの国内競技場を巡り走ってきた。獲得したメダル(1位~3位)類も100個は下らない。

今年も5月から各種大会が始まる。埼玉、秋田、東北、関東、全国大会を予定している。

最近、観光地その他で、車椅子、杖を使用する老人を見かける事が多い。昭和の光と影の人生を歩み、戦後の復興と繁栄を担った人達の老後の姿なのである。

私も老人として更なる未知の時間を刻み続けている。一瞬一瞬の時刻をどのように読めば良いのだろうか。

心の老化防げるのか、これからの老後を心穏やかに、無理をせず、体の動く限り走り続けたいものである。

株式会社 汎建築設計事務所

代表取締役 鈴木 誠一 (昭和38年建築科卒)

一級建築士
コスト管理士

秋田市保戸野すわ町14-23
TEL 018-862-3449
FAX 018-862-3289
E-mail: han_0416@cna.ne.jp

URL: http://www.cna.ne.jp/han_0416/